

# 教育方法学

教授 安田 大典  
Tomonori Yasuda

## 現在の研究テーマと内容

1. 養成校における臨床実習の研究、および、新人教育システムに関する研究
2. 高次脳機能と生活機能・環境因子・個人因子に関する研究

## これまでの研究成果と今後の展開

研究テーマに関するこれまでの研究成果は以下の通りです。

- ・松永秀俊、山野薫、安田大典、[他]。受験時期と学生の不安との関係 リハビリテーション教育研究 Vol 16 2011.
  - ・安田大典、樽井一郎、水野(松本)由子、[他]。総合臨床実習における情意領域に関する学生の意識変容 日本作業療法研究学会雑誌 No.14 (1) 2011.
  - ・安田大典、樽井一郎、水野(松本)由子、[他]。臨床工学技士養成大学学生の生活実態とメンタルヘルス調査 日本臨床工学技士会誌 No.43 2011.
  - ・樽井一郎、安田大典、水野(松本)由子。臨床工学技士養成大学の臨床実習における情意領域での自己評価分析による結果 医学教育 No.43 (2) 2011.
  - ・松永秀俊、山野薫、安田大典、[他]。入学直後の学生の通学環境と不安との関係 理学療法科学 NO.27 (3) 2012.
  - ・安田大典、飯山準一、水野(松本)由子、[他]。総合臨床実習中における情意領域の自己評価の検討—コンピュータを利用した自己評価システムを使用して—日本作業療法研究学会雑誌No.15 (1) 2013.
  - ・安田大典、飯山準一、水野(松本)由子、[他]。臨床実習前後における学生の気分状態と自己評価との関連性 日本作業療法研究学会雑誌 No.15 (2) 2013.
  - ・松永秀俊、山野薫、安田大典、[他]。年度別の学生不安を比較して リハビリテーション教育研究 Vol.18 2013.
- ※作業療法 臨床実習の手引き 第3版 社団法人日本作業療法士協会 2003.  
※作業療法 臨床実習の手引き 第4版 社団法人日本作業療法士協会 2010.

## 大学院を目指すみなさんへメッセージ

近年、リハビリテーションの臨床教育においてもクリニカル・クラークシップ (clinical clerkship: CCS) を導入し臨床実習を行う施設が増えてきています。CCSはよりよい医学教育がなされるために、学生が医療チームの一員として実際の診療に参加し、より実践的な臨床能力を身に付ける臨床参加型実習と言われており、養成卒業後の新人教育にも繋がられると考えられています。

我々は、これまで臨床実習や学生のメンタルヘルス、情意領域などについての研究を行ってきました。これからもよりよい臨床教育がなされるために教育効果の検証を行い教育システム開発や教育プログラム開発を行っていきたくと考えます。学生教育だけでなく、新人教育など臨床教育に興味のある方は、専門領域を超えて一緒に研究を行っていきましょう。